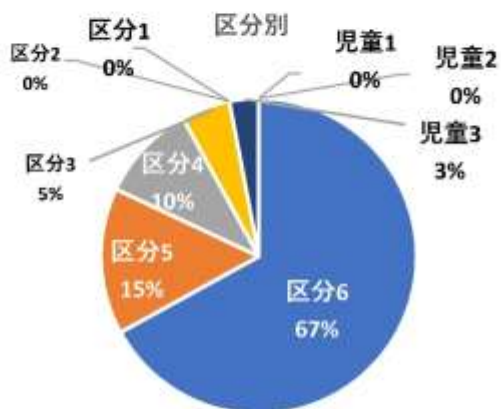


1 利用状況

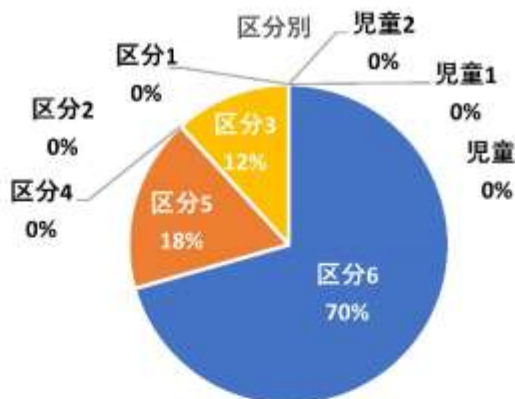
		自立体験室事業		短期入所事業		日中ショートステイ事業
		一般入居	短期入居	短期入所	緊急利用	
利用実績	利用定員	3人	2人	2人	1人	1~2人
	延利用者数	6人	182人	360人	24人	290人
	実利用者数	6人	8人	100人	17人	32人
	利用日数	619日	523日	1035日	74日	290日
	利用率	56.5%	71.4%	141.4%	20.3%	79.2%

実利用者数割合

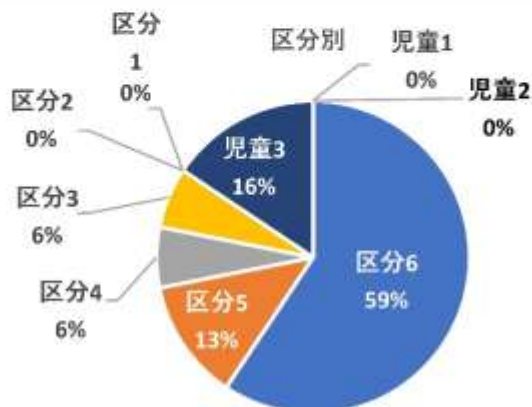
短期入所



緊急利用



日中ショートステイ



## 2 事業実施状況

### (1) 活動・支援の内容

#### ① 自立体験事業（世田谷区独自事業）

一般入居・短期入居という異なる利用期間と実施頻度を持つプログラムを通して、利用者それぞれの地域生活ニーズやライフステージに合った支援を展開した。

##### 【一般入居（1か月以上1年以内）】

6名が利用し、うち3名が一人暮らしに移行した。現在残り3名が一人暮らしやグループホームへの移行、就労を目指して、プログラムに取り組んでいる。

##### 【短期入居（月数泊の利用を数年間の範囲で継続的に実施）】

2023年度から一部利用者が新プログラムに移行し、なかまっち職員と業務委託ヘルパーが連携して支援にあたった。また、2024年からはすべての利用者が新プログラムに移行することから準備に取り組んだ。利用率は2021年度：32.6%、2022年度：49.4%、2023年度：71.4%と急伸しており、この傾向は来年度も引き続き継続する見込みである。

#### ② 短期入所（緊急短期入所含む）事業（法内事業）

マンツーマンで介助者が対応することから、重度かつ細やかな配慮が必要な障害支援区分6の利用者が約7割を占めている。緊急短期入所については、世田谷区の地域生活支援拠点として、自宅での生活が一時的に困難となった方の受け入れを行っている。

#### ③ 日中ショートステイ事業（なかまっち自主事業）

レスパイトや家族の仕事などによる利用が多い。短期入所と組み合わせることで、より自由度の高い利用を可能にしている。

#### 年間行事

5月	端午の節句（季節食） 感染症対策訓練	11月	玉川福祉フェスティバル参加 （玉川支援ねっと） 感染症対策訓練
6月	防災訓練	12月	まどカフェ クリスマス（季節食） 大晦日（季節食）
7月	七夕（季節食） スタッフミーティング AED研修	1月	お正月（季節食） 防災訓練
9月	お月見（季節食）	3月	ひな祭り（季節食）
10月	ハロウィン（季節食）		

### (2) 地域交流

#### ① 地域住民との交流・連携

コロナ禍前に定期開催していた「まどカフェ」を今年度より再開、なかまっちの自立体験室を経て地域生活を行っている方を招き、情報交換やゲームを行った。また、近隣幼稚園の外出活動時に施設の一部を供与するなどの協力を行っている。

#### ② 地域の関係機関との連携・交流

玉川エリア自立支援協議会や玉川支援ねっと（玉川地域の障害者施設等のネットワーク）に参加した。交流を通して地域課題の解決や、事業所間の関係性構築に取り組んだ。

#### ③ 継続的な情報発信

ホームページにおけるコラムや、法人広報誌での情報発信を継続的に行った。

### (3) 家族・関係機関との連携等

#### ① 家族との連携

短期入所においては、家族と緊密に連絡を取り合い、利用毎に支援情報を更新しながら適切な支援を行えるようにした。

#### ② 自立体験室事業におけるケースカンファレンスの開催

「個別支援計画」に基づき、支援の現状や方針について、家族や関係諸機関と情報共有を行った。また、自立体験室（短期入居）の新プログラム開始に伴い、利用者・家族とのミーティングを継続して開催した。

#### ③ 関係機関との連携強化

「短期入所連絡会」において、短期入所を運営する他事業者との情報共有を行うことができた。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

ボランティア1名の受け入れに向け調整したものの、実現には至らなかった。

### (5) 危機管理

#### ① 新型コロナウイルス感染症・その他感染症対応

「緊急対応マニュアル (BCP)」「ヘルパー介助マニュアル」などを随時アップデートしながら、感染防護対策や利用者支援を行った。特に感染防護キットについては従来の倍以上の数を館内に設置し、いっどこで利用者の体調急変があっても対応できるようにした。また、ノロウイルスを想定した訓練を2回実施した他、職員に対してインフルエンザ予防接種補助を実施した。

#### ② 防災・減災

防災設備点検業者の協力を受け、火災を想定した防災訓練や、館内の防災用品・非常誘導器具などの使用訓練を行った。また、非常用トイレ物資を増備すると共に、不要品の処分を業者に依頼し、館内環境の整備に努めた。

#### ③ 防犯

カメラ付きインターホンや防犯カメラを活用し防犯効果を高めた。また、定期的に110番通報装置の設置場所や使用方法を職員間で確認した。

### (6) 職員研修の実施

#### ① 所内研修

集合研修や研修動画（サポーターズカレッジ・お茶の水介護動画等）により、職員が介護・支援技術等を学び直す機会を確保した。職員の専門性を「障害」「介護」「制度」「地域」と位置づけ、幅広くOFF-JT研修を受ける機会を設けた上で、各自が得た知見を共有し合う機会を年4回設けた。

#### ② 法人全体研修

「虐待防止研修」「メンタルヘルス研修」「腰痛予防研修」に常勤職員が参加し、障害や虐待防止への理解を深めた。

#### ③ キャリアアップ研修

個別研修計画に基づき、常勤職員2名が相談支援従事者初任者研修を受講した。また、常勤職員1名が精神保健福祉士国家資格を取得した。

#### ④ 福祉動向の蓄積と支援への反映

「支援情報ライブラリー」に国内外の障害支援情報の蓄積を行っている。それら参考文献を通して、自立体験室のプログラムをより体系化しながら充実させるための手引きとしている。

## (7) その他（苦情・事故等）

### ① 事故…2件

- ・短期入所利用者が、排泄時にトイレより転倒。
- ・自立体験室利用者が、通所バス乗車時に道路段差にて転倒。

### ② ヒヤリハット…15件

- ・介助方法や服薬内容における誤り、コミュニケーション不足、忘れ物など。

### ③ 苦情…2件

- ・自立体験室利用者より、地域移行プログラムの進捗遅れについて。(1件)
- ・近隣住民より、駐車車両の騒音について。(1件)

## 3 重点目標への取り組み・成果

### ① 自立体験室事業の核となる「らしさブック」を中心とした支援の実施

2023年4月より、一部利用者が新プログラムに移行した。「個別支援計画」を中心として「らしさ計画」「自己紹介シート」「アセスメントシート」「生活づくりシート」「生活記録シート」等を整え、それらをまとめたものを「らしさブック」として活用した。定期的に開催するケースカンファレンスにおいても上記様式を活用し、情報共有をスムーズに行えるよう運用した。また、本人の自発性を重視した生活を構築するためのツールとして、上記を一般入居においても導入し、自立体験室プログラム全体を通して利用している。

### ② 短期入所事業（緊急利用含む）における安定的なサービス提供体制の構築

世田谷区の地域生活支援拠点（面的整備）として登録されているなかまっち緊急短期入所であるが、全ての緊急打診には対応できない状況だった。原因としては求人（WEB・チラシ等）を年間通して行った上でも、介護人材確保が困難を極めていたことが挙げられる。対策としてシフト編成の改良や法人内事業所への応援依頼と共に、新規介護業務委託事業所との契約、予算要求において介護業務単価の改善要請を行った。また、区の主催する短期入所連絡会において現状報告を行うと共に、ディスカッションへの参加を通して、同業他社と共に解決方法の糸口を探った。法人事務局とも協議し、引き続き運営方法の検討を行うこととなった。

### ③ 地域生活につながる生活の場の構築…等身大の交流づくり

食堂での人数制限を徐々に緩和し、食事時の団らんが戻りつつある。また3年ぶりに地域交流活動「まどカフェ」をぼーとたまがわと共催で再開し、好評を得ることができた。また、今後就労を目指している自立体験室（一般入居）利用者が館内で利用者が使用するタブレット端末のセットアップを、自立体験室（短期入居）利用者が洗濯物たたみ等を、短期入所利用者が床清掃等を行うなど、各自のモチベーションを尊重しつつ、なかまっちを小さな社会と見立てて役割を担う体験を行った。